

学燈

gakutou

【第 4 号】



～山口大学教職大学院は 2 年目を迎えました～

「院生たち、そしてお世話になるすべての皆様へ」

教育実践高度化専攻長 佐々木 司

教職大学院がスタートして 2 度目の春を迎えました。新たに 14 名の学生がメンバーに加わり、2 年次生 15 名、指導教員 14 名の計 43 名がそろいました。今年度はいわゆる「完成年度」です。私たちは山口大学教職大学院の姿をより鮮明に描き出すことが期待されていると同時に、その成果を問われる。そういう年になるでしょう。みなさん、一緒に頑張っていきましょう。



さて、本学の教職大学院には、入学前から指導を開始する、指導教員 3 名体制を敷いた上で 14 名の教員が 29 名すべての学生に対して指導やアドバイスを惜しまない、山口県内全域に積極的

に出向いていくといった特徴があります。これらと関連しますが、学生は自分のためだけに学ぶのではない（学習成果の還元）、教員は指導学生にだけ教えるのではない（指導を通じた学校等への貢献）という意識を強くもっています。教職大学院を通じて、県内各地、各校、各人に貢献できるよう努めています。

「独り学びて友なくんば、すなわち孤陋にして寡聞なり」。私は、学生も教員も、学校も教育委員会も「友」だと思っています。プライド、地位、知識、欲望・・・多くのものが私たちを閉じ込めようとします。学校もそうですが、閉じたシステムは疲弊し、やがては破綻します。それを開いてくれるもの、それが「友」です。

早いもので暦の上ではもう夏。私の研究室の窓からも萌えいずる若葉が見えます。中村草田男の句「万緑の中や吾子の歯生え初むる」を思い出しました。

平成29年度山口大学教職大学院教員一覧（14名）※50音順

名前（よみがな）	担当科目
池田 廣司（いけだ ひろし）	「学校経営と組織開発」「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A・B」他
板垣 育生（いたがき いくお）	「学校評価と学校改善」「生徒指導の実践と課題」「学校危機管理、リスクマネジメントの理論と実践B」「教育行政インターンシップ」他
岡崎 智利（おかざき ちとし）	「授業内容構成特論」「授業デザイン総合演習」他
栗田 克弘（くりた かつひろ）	「授業内容構成特論」「教科カリキュラム開発・授業デザインと評価B」「授業実践高度化演習」他
佐々木 司（ささき つかさ）	「学校関係法令の適用と課題」「学校評価と学校改善」「教育の制度と政策」「学校経営と組織開発」「教育行財政の制度と課題A・B」他
静屋 智（しずや さとる）	「学校危機管理・リスクマネジメントの理論と実践A」「教育の制度と課題A・B」「教育行政インターンシップ」他
霜川 正幸（しもかわ まさゆき）	「山口県教育の現状と課題」「学外連携・コミュニティ・スクールの理論と実践A・B」他
鷹岡 亮（たかおか りょう）	「知識基盤社会における情報活用の理論と実践A・B」「授業実践高度化演習」他
田邊 敏明（たなべ としあき）	「教育相談・特別支援教育の理論と実践A・B」「スクールカウンセリングの実践と課題」「学校不適応・問題行動等事例研究」他
藤上 真弓（ふじかみ まゆみ）	「教職員研修開発基礎」「キャリア教育実践演習」「学級経営開発基礎」他
前田 昌平（まえだ しょうへい）	「授業技術の理論と実践」「教科カリキュラム開発、授業デザインと評価A」他
前原 隆志（まえはら たかし）	「教職員研修開発実践演習」「カリキュラム開発の理論と実践B」他
松岡 敬興（まつおか よしき）	「道徳教育の理論と実践A・B」「特別活動の実践と課題」「学級経営の理論と実践」「生徒指導の実践と課題」他
和泉 研二（わいずみ けんじ）	「山口県教育の現状と課題」「授業内容構成特論」他

平成29年度山口大学教職大学院院生一覧（29名）※コース・50音順

【学校経営コース】

名前（学年）	原籍校	名前（学年）	原籍校
伊藤 孝浩（M1）	下関市立向山小学校	河田 久美（M2）	山口県立周防大島高等学校
井本 絢子（M1）	周南市立熊毛中学校	重永美津子（M2）	萩市立福栄小中学校
川本 和敏（M1）	防府市立右田中学校	常岡 敏行（M2）	下関市立名池小学校
榊原 美代（M1）	岩国市立平田小学校	中原 恵子（M2）	柳井市立柳井中学校
杉山 夕子（M1）	美祢市立大嶺小学校	三時 和久（M2）	山口市立宮野中学校
田中由起枝（M1）	萩市立大島中学校	室内 文彦（M2）	光市立大和中学校
二瀬 隆雄（M1）	山口県立山口総合支援学校	茂田 幸恵（M2）	岩国市立川下小学校

【教育実践開発コース】

名前（学年）	実習校	名前（学年）	実習校
大塚 祐亮（M1）	萩市立佐々並小学校	天津 悠介（M2）	山口市立中央小学校
沖永 恵理（M1）	防府市立国府中学校	河合 哲郎（M2）	山口市立湯田中学校
長富 大輔（M1）	山口市立小郡中学校	佐田尾和史（M2）	山口市立宮野中学校
末成 智宏（M1）	山口市立佐山小学校	高橋 遼太（M2）	山口市立川西中学校
永富 大樹（M1）	山口市立平川中学校	鉄村 晋也（M2）	山口市立鴻南中学校
並河 銀野（M1）	山口市立大殿小学校	藤井龍太郎（M2）	山口市立徳地中学校
福田 晴夏（M1）	山口市立白石中学校	宮崎 雅史（M2）	山口市立宮野中学校
		八木 将哉（M2）	山口市立大殿中学校

「教職大学院に入学して」

【学校経営コース】

私は、教職大学院での学びは、教員としての経験と理論を結びつけ、教員生活をふり返る時間だと感じている。講義で一番印象に残った言葉は、「敬意を払いつつ、クリティカル（批判的）な視点で物事を見つ



める」ということである。例えば「なぜコミュニティ・スクールなのか」、「なぜ学校評価なのか」と、一つひとつに問いを立てる。様々な立場から物事を見つめ、とらえ直しながら答えを導き出す意識がもてるようになった。これまでの私は今までの経験にとらわれ過ぎ、何でもこれが正しいと決めつけていたような気がする。経験とともに視野が狭くなり、そのせいで自分の成長を止めていたことを1カ月で再認識させられた。

いよいよ5月から学校実習が始まる。研修テーマを意識しつつ、少し離れた位置から現場を見つめ、今までと違う形で、先生方や子どもたちに貢献したい。教職大学院卒業後の目標は「現場の先生方や子どもたちに学んだことを還元する」である。教職大学院で学びたいと志した思いを忘れず、日々精進を続けたい。

(学校経営コース1年：川本 和敏)

【教育実践開発コース】

私が教職大学院への進学を志願した理由は、教員としてより質の高い実践的指導力を身に付けるとともに、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業づくりの研究をしたいと思ったからである。大学教職大学院の魅力は、講義と学校実習をもとにした理論と実践の融合が図られている点にある。講義では、指導案の書き方、授業参観における視点、生徒指導、教育相談、山口県教育の現状と課題等について、現職の院生と協議する機会が設けられている。経験を積まれた現職院生との関わりを通して、多様な意見交換ができるのでたいへん勉強になっている。

週に2日間の学校実習では、授業をただ行うだけではなく、学級活動や委員会活動、学校行事等の教育活動全体に参画する。子どもたちの成長に年間を通じて関わることができるのも、この実習のうれしい点である。日々の実習を終え、教職大学院に帰り、担当教員との省察の中で試行錯誤を繰り返し、少しずつ指導力を身に付けている実感がある。近い将来、学校の「ミドルリーダー」になるべく、これからも学びを深めて行きたい。

(教育実践開発コース1年：永富 大樹)